（様式第9）

川学法第５３８号
平成２０年１０月３日

厚生労働大臣　　殿

川崎医科大学附属病院
学校法人　川崎学園
理事長　　川崎　明

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成１９年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　→　別紙参照（様式第10）

2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　→　別紙参照（様式第11）

3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	５９．３　人

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
　→　別紙参照（様式第12）

5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
　→　別紙参照（様式第13）

7　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	381人	8人	382.1人	看護業務補助	81人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	6人	1人	6.3人	理学療法士	26人	臨床検査	臨床検査技師	87人
薬剤師	41人	0人	41.0人	作業療法士	22人		衛生検査技師	0人
保健師	5人	0人	5.0人	視能訓練士	11人		その他	0人
助産師	6人	2人	6.9人	義肢装具士	0人	あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師		0人
看護師	647人	13人	655.5人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者		7人
准看護師	3人	0人	3.0人	栄養士	5人	その他の技術員		22人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	1人	事務職員		120人
管理栄養士	24人	0人	24.0人	診療放射線技師	39人	その他の職員		40人

（注）1　報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
　　2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
　　3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。
　　それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者、外来患者及び調剤の数
　歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者数及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	680.2　人	7.3　人	687.5　人
1日当たり平均外来患者数	1,336.1　人	47.7　人	1,383.8　人
1日当たり平均調剤数	2,960.8　剤		

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄には、それ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
　　2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
　　3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
　　4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・(無)	人
膝靱帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・(無)	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・(無)	人
胎児心超音波検査	有・(無)	人
インプラント義歯	有・(無)	人
顎顔面補綴	有・(無)	人
顎関節症の補綴学的治療	有・(無)	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・(無)	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・(無)	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・(無)	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・(無)	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・(無)	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・(無)	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・(無)	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・(無)	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・(無)	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・(無)	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・(無)	人
HDRA法又はCD—DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	(有)・無	0人
子宮頸部前がん病変のHPV—DNA診断	有・(無)	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・(無)	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・(無)	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・(無)	人
成長障害のDNA診断	有・(無)	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・(無)	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・(無)	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・(無)	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・(無)	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・(無)	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・(無)	人
神経変性疾患のDNA診断	有・(無)	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・(無)	人
重粒子線治療	有・(無)	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・(無)	人
31燐—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・(無)	人
神経芽腫のRNA診断	有・(無)	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・(無)	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・(無)	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・(無)	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有・(無)	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・(無)	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・(無)	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・(無)	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・(無)	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・(無)	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・(無)	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・(無)	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・(無)	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	(有)・無	0人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・(無)	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・(無)	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・(無)	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・(無)	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・(無)	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・(無)	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・(無)	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・(無)	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・(無)	人
超音波骨折治療法	(有)・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・(無)	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・(無)	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・(無)	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・(無)	人
膀胱水圧拡張術	有・(無)	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・(無)	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・(無)	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・(無)	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・(無)	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・(無)	人
骨移動術による関節温存型再建	有・(無)	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・(無)	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍	有・(無)	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・(無)	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・(無)	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・(無)	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・(無)	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・(無)	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・(無)	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・(無)	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・(無)	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・(無)	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・(無)	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・(無)	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	(有)・無	0人
カフェイン併用化学療法	有・(無)	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・(無)	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・(無)	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・(無)	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・(無)	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・(無)	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・(無)	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	(有)・無	4人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・(無)	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱い患者数	疾　患　名	取扱い患者数
・ベーチェット病	63人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	19人
・多発性硬化症	33人	・ウェゲナー肉芽腫症	2人
・重症筋無力症	53人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	23人
・全身性エリテマトーデス	210人	・多系統萎縮症	23人
・スモン	10人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人
・再生不良性貧血	36人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	29人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・筋萎縮性側索硬化症	18人	・原発性胆汁性肝硬変	37人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	183人	・重症急性膵炎	20人
・特発性血小板減少性紫斑病	84人	・特発性大腿骨頭壊死症	22人
・結節性動脈周囲炎	49人	・混合性結合組織病	19人
・潰瘍性大腸炎	168人	・原発性免疫不全症候群	4人
・大動脈炎症候群	29人	・特発性間質性肺炎	3人
・ビュルガー病	74人	・網膜色素変性症	14人
・天疱瘡	21人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	42人	・原発性肺高血圧症	4人
・クローン病	127人	・神経線維腫症	7人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	130人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	2人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	35人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	3人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床部門と病理診断部門との症例検討会　1か月　２０回程度 臨床部門と臨床検査部門との症例検討会　1か月　１４回程度	
剖　検　の　状　況	剖検症例数　48　例	剖検率　11.4 %

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1　研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
骨格筋増殖抑制因子myostatinの活性阻害による筋ジストロフィー治療薬の開発	砂田　芳秀	内科学(神経)	1,000 万円	(補) 委	厚生労働省
筋ジストロフィーおよびその関連する疾患の病態生理の解明と治療薬物の開発に関する研究	砂田　芳秀	内科学(神経)	300 万円	補 (委)	厚生労働省
肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究	日野　啓輔	内科学 (肝・胆・膵)	200 万円	補 (委)	厚生労働省
鉄過剰からみたC型肝炎の肝発癌機構の解析	日野　啓輔	内科学 (肝・胆・膵)	150 万円	(補) (委)	ｼｪﾘﾝｸﾞﾌﾟﾗｳ株式会社 日本肝臓学会
食道腺がんの高危険群の同定および予防介入試験に関する研究-バレット食道の発生要因とその予防-	春間　賢	内科学 (食道・胃腸)	120 万円	(補) 委	厚生労働省 がん研究助成金
日本人における動脈硬化性大動脈弁膜疾患の発症・進展予防に関する研究	吉田　清	内科学(循環器)	150 万円	(補) 委	厚生労働省
糖尿病性腎症の糸球体血管透過性制御における内皮細胞の役割	佐藤　稔	内科学(腎)	50 万円	(補) 委	第13回分子腎臓研究会
加齢による腎臓の間質線維化機序の解明	佐藤　稔	内科学(腎)	100 万円	(補) 委	三井生命厚生事業団医学研究助成
慢性腎臓病と心血管病連関微量アルブミン尿出現のメカニズムとその意義	佐藤　稔	内科学(腎)	20 万円	(補) 委	CKD AWARD 2007
Dahl食塩感受性高血圧ラットにおける腎臓血管自動調節能異常の機序の解明	佐藤　稔	内科学(腎)	95 万円	(補) 委	ソルトサイエンス研究財団
腎臓血管リモデリングにおけるP2×4型受容体の役割の検討	浪越　為八	内科学(腎)	50 万円	(補) 委	循環器学研究振興財団
海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究	尾内　一信	小児科学	1,500 万円	補 (委)	厚生労働省
ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討	寺田　喜平	小児科学	100 万円	補 (委)	厚生労働省
風疹ワクチン抗原性の新しい比較方法に関する研究	寺田　喜平	小児科学	30 万円	(補) 委	(財)両備樫園記念財団研究助成
児童思春期強迫性障害(OCD)の実態の解明と診断・治療法の標準化に関する研究	青木　省三	精神科学	70 万円	補 (委)	厚生労働省
早期精神病の予防、早期治療および病態解明に関する臨床的研究	青木　省三	精神科学	100 万円	補 (委)	厚生労働省
精神療法の実施方法と有効性に関する研究	中川　彰子	精神科学	150 万円	(補) 委	厚生労働省
強迫性障害と広汎性発達障害における強迫症状の相違点についての研究-有用な治療指針の作成のために-	山下　陽子	精神科学	50 万円	補 (委)	メンタルヘルス岡本記念財団研究助成金

計　18

がんの小線源放射線治療の評価と品質管理に関する研究	平塚　純一	放射線(治療)	100 万円	補○ 委	厚生労働省
骨粗鬆症性骨折の実態調査および全国的診療データベース構築の研究	福永　仁夫	放射線(核医学)	50 万円	補○ 委	厚生労働省
骨粗鬆症による要介護状態発生の予防にむけて-今後の骨粗鬆症検診のあり方についての調査・研究-	福永　仁夫	放射線(核医学)	400 万円	補○ 委	老人保健健康増進等事業
臍帯血及び胎児付属物を用いた循環器疾患に対する再生医療に関する研究	下屋　浩一郎	産婦人科学	100 万円	補 委○	循環器病研究費
前立腺癌に対する高線量率組織内照射PSA再発に関する予測因子の検討-ハイリスク前立腺癌においてsurvirinの発現は予後予測因子になり得るのか-	原　綾英	泌尿器科学	25 万円	補○ 委	(財)川崎医学・医療福祉学振興会
超急性期脳梗塞患者の救急搬送及び急性期病院受け入れ体制に関する実態調査研究	木村　和美	脳卒中医学	2,000 万円	補○ 委	厚生労働省
大動脈原性脳梗塞の病態、診断予防に関する研究	木村　和美	脳卒中医学	180 万円	補 委○	国立循環器病センター・内科脳血管部門
特発性造血障害に関する研究	通山　薫	検査診断学(病態解析)	100 万円	補○ 委	厚生労働省

計 8

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 26

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
J.Smooth Muscle Res 43(3):99-107, '07	Stepped assessment of gastric emptying of a solid meal using the 13C-octanoic acid breath test	Kusunoki Hiroaki	総合臨床学
Therapeutic Research 28(4):638-640、'07	体外式超音波を用いたFunctional Dyspepsia(FD)における自律神経機能と消化管運動機能の評価	楠　裕明	〃
日本東洋心身医学研究 22(1-2):5-11、'08	超音波を用いた消化器不定愁訴(functional dyspepsia)の病態解析	楠　裕明	〃
Leukemia and Lymphoma 48(4):767-773, '07	Establishment and characterization of the new splenic marginal zone lymphoma-derived cell line UCH1 carrying a complex rearrangement involving t(8;14) and chromosome 3	Matsuhashi Yoshiko	内科学(血液)
Leukemia and Lymphoma 48(10):2075-2078, '07	Amyloid-associated amyloidosis in a HCV carrier with non-Hodgkin's lymphoma who had been treated with autologous stem cell transplantation and rituximab	Kubo Yasutaka	〃
日本エイズ学会誌 9(2):153-157、'07	川崎医科大学附属病院におけるHIV抗体検査及びHIV感染者/AIDS患者の現状	和田秀穂	〃
臨床血液 48(2):134-139、'07	十二指腸原発濾胞性リンパ腫8症例の臨床的検討	和田秀穂	〃
Cytometry Part B Clinical Cytometry 74B(2):104-109, '08	DNA ploidy and cell cycle analyses in the bone marrow cells of patients with megaloblastic anemia using laser scanning cytometry	Wada Hideho	〃
Dev 236:2800-2807, '07	Involvement of Wnt4 Signaling During Myogenic Proliferation and Differentiation of Skeletal Muscle	Sunada Y	内科学(神経)
Micron 38(3):257-267, '07	Generation of muscle aquaporin 4 overexpressing transgenic mouse:Its characterization at RNA and protein levels including freeze-fracture study	Sunada Y	〃
Muscle & Nerve 36:307-312, '07	Simple and novel method to measure distal sensory nerve conduction of the medial plantar nerve	Henmi S	〃
FASEB J 22(2):477-487, '07	Transgenic expression of a myostatin inhibitor derived from follistatin increases skeletal muscle mass and ameliorates dystrophic pathology in mdx mice	Murakami T	〃
Gastroenterology 134(1):226-238, '08	Hepatitis C virus-induced reactive oxygen species raise hepatic iron level in mice by reducing hepcidin transcription	Hino Keisuke	内科学(肝・胆・膵)

計 13

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Liver International	Stronger Neo-Minophagen C, a glycyrrhizin-containing preparation, protects liver against carbon tetrachloride-induced oxidative stress in transgenic mice expressing the hepatitis C virus polyprotein	Hino Keisuke	内科学 (肝・胆・膵)
Journal of Clinical Ultrasound 36(2):78-81, '07	CO2-enhanced sonographically guided radiofrequency ablation and transcatheter arterial chemoembolization for small hepatocellular carcinoma poorly defined on conventional sonography	Ohmoto Kenji	〃
Hepato- Gastroenterology 54:985-989, '07	Radiofrequency ablation versus percutaneous microwave coagulation therapy for small hepatocellular carcinomas:A retrospective comparative study	Ohmoto Kenji	〃
Journal of Gastroenterology and Hepatology 22:645-652, '07	Peginterferon α-2a(40 KD)plus ribavirin for the treatment of chronic hepatitis C in japanese patients	Kuboki Makoto	〃
消化器科 45(2):213-219、'07	膵液を利用した早期膵癌診断	吉田浩司	〃
臨牀消化器内科 22(1):23-27、'07	特集 Barrett食道 3 Barrett食道の発生機序	春間 賢	内科学 (食道・胃腸)
Dig Dis Sci 52(4):1019-1025、'07	Visualization of the small intestine using capsule endoscopy in healthy subjects	Shiotani Akiko	〃
Digestive Endoscopy 19(4):180-184, '07	Nudular gastritis with Helicobacter pylori infection is strongly associated with diffuse-type gastric cancer in young patients	Kamada Tomoari	〃
Digestion 77(Suppl1):48-51, '08	Real-time assessment of gastroduodenal motility by ultrasonography	Haruma Ken	〃
Scand J Gastroenterol 42:513-518, '07	New method of eveluating gastric mucosal blood flow by ultrasound	Haruma Ken	〃
Scand J Gastroenterol 42:577-585, '07	Predicting the need for surgery in Crohn's disease with contrast harmonic ultrasound	Haruma Ken	〃
Aliment Pharmacol Ther 26:257-264, '07	Generation of dyspeptic symptoms by direct acid infusion into the stomach of healthy Japanese subjects	Haruma Ken	〃
Ther Res 28:837-840、'07	唾液腺機能からみた逆流性食道炎と非びらん性胃食道逆流症の差異 超音波ドプラを道いた新たな評価法の確立とその臨床応用	春間 賢	〃
Journal American Society of Echocardiography 20(11):1243-1246, '07	Rapid progression of mild to moderate aortic stenosis in patients older than 80 years	Kume Teruyoshi	内科学(循環器)

計 14

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Journal of magnetic resonance imaging 25(1):129-136, '07	Small hepatic lesions found on single-phase helical CT in patients with malignancy: diagnostic capability of breath-hold, multisection fluid-attenuated inversion-recovery (FLAIR) MR imaging using a half-fourier acquisition single-shot turbo spin-echo (HASTE) sequence	Ito Katsuyoshi	放射線医学(画像診断)
Journal of magnetic resonance imaging 27:552-556, '08	Age-related and zonal anatomical changes of apparent diffusion coefficient values in normal human prostatic tissues	Tamada Tsutomu	〃
Catheterization and Cardiovascular Interventions 70:303-308, '07	Transradial approach for non-coronary angiography and interventions	Yamashita Takenori	〃
The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 134(4):1012-1016, '07	Improvement of flow capacity of the left internal thoracic artery graft assessed by using a pressure wire	Kazuo Tanemoto	外科学(胸部心臓血管)
Clinical Hemorheology and Microcirculation 37(3):269-276, '07	Changes of asymmetric dimethylarginine, nitric oxide, tetrahydrobiopterin, and oxidative stress in patients with acute myocardial infarction by medical treatments	Kazuo Tanemoto	〃
Surgical Endoscopy 21(9):1607-1611, '07	Comparison in prognosis after VATS lobectomy and open lobectomy for stage I lung cancer: retrospective analysis focused on a histological subgroup	Nakata Masao	〃
Lung Cancer 58(1):30-35, '07	Mutation of the epidermal growth factor receptor gene in the development of adenocarcinoma of the lung	Masao Nakata	〃
Circulation Research 101(11):1175-1184, '07	Regression of abdominal aortic aneurysms by simultaneous inhibition of nuclear factor kappaB and ets in a rabbit model	Hisao Masaki	〃
日本血管外科学会雑誌 16(5):653-659、'07	感染性腹部大動脈瘤に対する非解剖学的血行再建術の遠隔成績	田淵　篤	〃
Circulation Journal 71(8):1317-1320, '07	Mycotic aortic aneurysm induced by Klebsiella pneumoniae successfully treated by in-situ replacement with rifampicin-bonded prosthesis: report of 3 cases	Hitoshi Minami	〃
川崎医学会誌 33(2):107-114、'07	進行乳癌に対するドセタキセルとドキシフルリジン併用化学療法の抗腫瘍効果、有害事象、効果予測因子の検討	山本裕	外科学(乳腺甲状腺)
Breast 16(suppl.2):S72-S77, '07	The prevalence of intrinsic subtypes and prognosis in breast cancer patients of different races	Kurebayashi Junichi	〃
Breast Cancer 15:86-92, '08	Whole-breast radiotherapy with shorter fractionation schedules following breast-conserving surgery: short-term morbidity and preliminary outcomes	Sonoo Hiroshi	〃

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
International Journal of clinical Oncology 13(1):8-11, '08	No increase of breast cancer incidence in Japanese women who received hormone replacement therapy: overview of a case-control study of breast cancer risk in Japan	Sonoo Hiroshi	〃
Journal of Cancer Research and Clinical Oncology 134(5):561-567, '07	Low nuclear grade but not cell proliferation predictive of pathological complete response to docetaxel in human breast cancers	Kurebayashi Junichi	〃
Cancer Letters 264(1):44-53, '08	Topoisomerase IIalpha-positive and BRCA1-negative phenotype: Association with favorable response to epirubicin-based regimens for human breast cancers	Kurebayashi Junichi	〃
日本小児外科学会雑誌 43(4):609-614、'07	漏斗胸に対するNuss手術後感染例の検討	中岡達雄	外科学(小児)
Journal of Pediatric Surgery 42(11):E29-32, '07	Retroperitoneal ganglioneuroblastoma resected 8 years after mass screening: a case report	Nakaoka Tatsuo	〃
日本小児外科学会雑誌 43(5):683-687、'07	Nuss手術後バー留置中に発症した自然気胸の検討	中川賀清	〃
日本小児外科学会雑誌 43(7):933-937、'07	片腎機能を温存しえたFRNの1例	中川賀清	〃
Journal of Pediatric Surgery 43(3):518-521, '08	Evaluation of the Nuss procedure using pre- and postoperative computed tomographic index	Nakagawa Yoshikiyo	外科学(小児)
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 79(11):801-810、'07	頭頸部癌に対する超選択的動注化学放射線療法の現況－頸部リンパ節転移への対応をいかに行うか－	秋定　健	耳鼻咽喉科学
病院設備 49(6):520-529、'07	癌放射線治療の新たなパラダイス　硼素中性子捕捉療法(癌細胞選択的放射線治療)の現状と将来	粟飯原輝人	〃
頭頸部癌 33(1):35-38、'07	下咽頭進行癌における超選択的動注化学放射線療法の臨床的検討	宇野雅子	〃
Journal of Urology 177(4):286, '07	Ejaculatory dysfunction caused by new A1-blocker: analysis of human ejaculatory phenomenon using color doppler ultrasonigraphy	Nagai Atsushi	泌尿器科学
Urology 69(3):457-461, '07	Comparative study of oncologic outcome of laparoscopic nephroureterectomy and standard nephroureterectomy for upper urinary tract transitional cell carcinoma	Nagai Atsushi	〃
Acta Medica Okayama 61 (6) : 341-344, '07	Routinr Transurethral Biopsy of the Bladder Is Not Necessary to Evaluate the Response to Bacillus Calmette-Guerrin Therapy	Yoshiyuki Miyaji	〃
西日本泌尿器科 69(8):494-497、'07	女性腹圧性尿失禁に対するTVT術後de novo urgency発生に関与する危険因子の検討	横山光彦	〃

計 15

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Neurourology and Urodynamics on line, '07	Correlation of urinary nerve growth factor level with pathogenesis of overactive bladder	Yokoyama Teruhiko	〃
Journal of Urology 177(4):326, '07	Correlation of urinary nerve growth factor level with pathogenesis of overactive bladder	Yokoyama Teruhiko	〃
西日本泌尿器科学会雑誌 98(3):558-564、'07	高齢者夜間頻尿における脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)と相対的夜間多尿の関連	近藤典生	〃
西日本泌尿器科学会雑誌 70(3):137-143、'08	高齢者夜間頻尿における脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)測定の意義	近藤典生	〃
The Journal of Urology 117(1):225-229, '07	Pelvic Autonomic Nerve Mapping Around the Prostate by Intraoperative Electrical Stimulation With Simultaneous Measurement of Intracavernous and Intraurethral Pressure	Hara Ryoei	〃
Prostate cancer and prostatic diseases 11:134-138, '07	A prospective randomized comparison of diagnostic efficacy between transperineal and transrectal 12-core prostate biopsy	Hara Ryoei	〃
Urology 71(2):191-5, '08	Optimal approach for prostate cancer detection as initial biopsy:prospective randomized study comparing transperineal versus transrectal systematic 12-core biopsy	Hara Ryoei	〃
Biotherapy 21(5):356、'07	制御性T細胞の制御と治療への応用 低用量抗CD25抗体によるCD4+CD25++レギュラトリーT細胞制御の臨床研究	山口佳之	臨床腫瘍学
Biotherapy 22(1):29-34、'08	【外科に応用可能な免疫学的戦略】Regulatory T細胞の制御と癌免疫療法	山口佳之	〃
Hiroshima Journal of Medical Sciences 57(1):37-46, '08	Dose-finding study of anti-CD25 antibody for targeting regulatory T cells in locoregional immunotherapy of malignant effusion	Okawaki Makoto	〃
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 44(10):593-597、'07	高次脳機能障害のリハビリテーションの実学;岡山県における高次脳機能障害者の支援体制	椿原彰夫	リハビリテーション医学
高次脳機能研究 27(03):240-250、'07	右大脳半球損傷で生じた失語を伴わない交叉性口腔顔面失行の一例	山田裕子	〃
老年精神医学雑誌 18(04):411-416、'07	Ray-Osterriethの複雑図形を用いた認知症者の視覚性記憶の検討	山田裕子	〃
Internatl J Hematol 86:150-157, '07	A prospective study of cyclosporine A treatment of patients with low-risk myelodysplastic syndrome:presence of CD55-CD59- blood cells predicts platelet response	Tohyama Kaoru	検査診断学(病態解析)
Cytometry Part B:Clinical Cytometry 74B(2):104 - 109, '08	DNA ploidy and cell cycle analyses in the bone marrow cells of patients with megaloblastic anemia using laser scanning cytometry	Tsujioka Takayuki	〃

計 15

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日本検査血液学会雑誌 9(1):16-22、'08	May-Gruenwald-Giemsa染色を施した骨髄塗沫保存標本を用いた免疫細胞学的染色法の試み	秋山　隆	病理学1

計 1

（注）１　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

２「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計 71

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長　角田　　司
管理担当者氏名	病院事務部長　難波　　徹

			保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			病院事務部医事課 医学資料部 中央病歴室	(1) 外来診療録：一元番号法 (2) 入院診療録：一連一元番号法 (3) X線フィルム：一元番号法
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		総務部人事課 病院事務部病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績		病院事務部医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		病院事務部医事課	
	高度の医療の研修の実績		病院事務部病院庶務課	
	閲覧実績		病院事務部医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		病院事務部医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		病院事務部医事課 薬剤部	
	確規保則の第状9況条の23及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部病院庶務課	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	病院事務部病院庶務課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	病院事務部病院庶務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 医療機器管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理センター	

（注）　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長　難波　徹
閲覧担当者氏名	病院庶務課長　大賀　孝子、医事課長　小林　宏規
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課(応接室)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0 件
閲覧者別	医師	延　0 件
	歯科医師	延　0 件
	国	延　0 件
	地方公共団体	延　0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	53.1 %	算定期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日

算出根拠	A：紹介患者の数	11,357 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,483 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,141 人
	D：初診の患者の数	36,600 人

(注)　1　「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
　　2　A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式第 13-2）

規則第９条の２３及び第１条の１１各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（ １名）・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ １名）・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（ ２ ）名 兼任（ ２ ）名 ・ 活動の主な内容： (1)インシデント報告書に対するリアルタイムな対応 (2)医療安全管理マニュアルの改正とその周知徹底 (3)教育・研修の立案（全職員の医療安全についての意識を高めるための職員教育講演会でワーキンググループを広報する） (4)リスク管理の充実化を図るため各部署内の医療安全パトロール（ワーキンググループ・医療安全管理委員会が月毎に担当） (5)患者誤認防止システムの構築に向けての具体的な検討（トリプルチェックの徹底）を行う。 (6)医療事故分析と対策をニューズレターで啓発（毎月２回発行） (7)医療安全管理推進週間（医療安全啓発ポスターを作成して期間中は院内に掲示する） (8)年用医療安全カレンダーの作成（各ワーキンググループの手作りカレンダー） (9)私立医科大学病院相互チェックの実施（当院を含む中国・九州ブロック４校でラウンドを行う） (10)医薬品・医療機器安全管理責任者を配置して医療安全管理体制の強化を図る。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 当院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年３４回
・ 活動の主な内容： 医療安全管理に関する委員会は、まず院内の取り組みを総括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置し、その下部委員会として、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図る「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。また、医療事故の発生事例に対処する「病院医療委員会」を設置している。 (1) 病院医療安全管理委員会：２２回開催 病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織である。 (2) リスクマネージャー連絡会議：９回開催 医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発する。 (3) 病院医療委員会：５回開催 医療事故が発生した場合、その対応方法を検討する。	

⑦　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全関係９回 年２０回

・　研修の主な内容：

当院の安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底するため、平成19年度は次の計画をもって運営した。

(1) 4月：リスクマネージャー連絡会議：66人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」

(2) 5月：リスクマネージャー連絡会議：64人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」、「リスクマネージャーの交替について」
「平成18年度各ワーキング1年間の活動報告会」：722人参加（全職員対象）

(3) 6月：リスクマネージャー連絡会議：62人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
「多剤耐性緑膿菌の振興と対策」：688人参加（全職員対象）

(4) 7月：リスクマネージャー連絡会議：65人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
夏期セミナー「医療と法律」：169人参加

(5) 9月：リスクマネージャー連絡会議：64人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
「平成18年度各ワーキング1年間の活動報告会」：633人参加（全職員対象）
「針刺し事故防止とエピネット報告書」：615人参加（全職員対象）

(6)10月：「褥瘡予防のためのポジショニング」：807人参加（全職員対象）

(7)11月：リスクマネージャー連絡会議：61人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
医療安全管理委員会報告「第2回医療安全相互ラウンド結果報告について」、「医療安全マニュアル総論版＜第４版＞の差替えと追加について」
「「声の箱」に投じられた患者の皆様の声」：713人参加（全職員対象）

(8)1月：リスクマネージャー連絡会議：61人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
「個人情報保護について」：735人参加（全職員対象）

(9)2月：リスクマネージャー連絡会議：64人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
「①医薬品の安全管理について」「②医療機器の安全使用について」「③MRI検査を安全に行うために」：511人参加（全職員対象）

(10)3月：リスクマネージャー連絡会議：59人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
「クリニカル・パスを使用しない病院は崩壊する」：608人参加（全職員対象）

⑧　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・　医療機関内における事故報告等の整備　　（　有・無　）
・　その他の改善のための方策の主な内容：

(1) ニューズレターによる情報提供（2回/月発行）
(2) インシデント・アクシデント防止のため、必要時に注意・啓発目的でDVD（指導・教育用）・標語・ポスターを作成する。
(3) 医療安全パトロールからの情報提供（医療マニュアルへ予防・対策案を追加記載する）

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、当該指針の閲覧およびその他院内感染対策推進のための必要な基本方針について記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年１２回
・ 活動の主な内容： 職種横断的に委員がおり、院内感染対策室の活動状況、ICTの活動、耐性菌の発生状況、抗菌使用状況、問題のある例などが報告され、協議検討されている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年２回
・ 研修の主な内容： 1回は外部講師による講演会、1回は院内講師で特にワーキンググループ活動で成功例について発表してもらっている。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎週、院内の耐性菌発生状況が報告され、それによってICTのラウンドとは別に病棟ラウンドしている。またMRSAなど耐性菌の多い病棟や、クリーンルームのある病棟ではワーキンググループを作って活動し、効果をあげている。	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年５回
・ 研修の主な内容： ・医薬品の安全管理について ・アロデートの投与時の注意点及び副作用について（3回） ・術後静脈血栓予防ガイドラインについて、カプロシン皮下注適正使用について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成　（ 有・無 ） ・ 業務の主な内容： 要管理医薬品（麻薬・向精神薬、筋弛緩剤等）の病棟等の配置分について毎日又は2～3回/週使用分補充時に使用数量とともに在庫状況をチェックしている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・院内サイボウズ（連絡網）にて、情報を各医師、各部署へ配信する。 ・院内で発生したインシデント、アクシデント情報は医療安全委員会経由で注射・内服・外用ワーキングチームで対応を検討し、その内容は医療安全委員会で更に検討、その内容は各部署、各科からの代表で構成された1回/月のリスクマネージャー会議に提出され、各部署、各科で情報共有する。内容によってはニューズレターとして各部署に配布、全員に情報が伝わったことを確認する。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年７０回
・ 研修の主な内容： ・新人（看護師、医師）に対するME機器研修 ・人工呼吸器について ・輸液/シリンジポンプの取り扱い研修 ・放射線関連機器に関する安全研修（MRI）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定　（ 有・無 ） ・ 保守点検の主な内容： ・日常点検及び定期点検について各部門毎に実施 ・対象は生命維持管理装置（人工呼吸器等）、その他医療機器（輸液/シリンジポンプ等）、放射線関連装置など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備　（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・不具合情報に関するメーカー/厚生労働省への報告は現在なし ・添付文書/取扱い説明書について：MEセンター（生命維持管理装置及び中央管理対象機器）または各医療機器安全管理部門において管理中	